

# イエス・キリスト

「キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。  
 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、脅すことをせず、  
 正しくさばかれる方にお任せになった。  
 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。  
 それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。  
 その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。  
 あなたがたは羊のようにさまよっていた。  
 しかし今や、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰った。」  
 ペテロの手紙第一 2章22節～25節

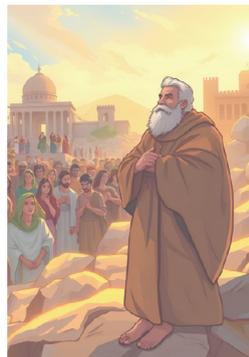
上記の聖書のことばは、キリストの第一の弟子であった使徒ペテロ  
 によって書かれたものです。彼は元はガリラヤ地方の漁師でしたが、  
 キリストの弟子として召されてからは、3年以上キリストと寝食を共  
 にしました。

相手のことをあまり知らないときには、その人の欠点や短所もわか  
 りません。しかし、付き合いが深くなれば、そうした面が見えてくる  
 ものです。まして、3年もの間、生活を共にすれば、何らかの欠点か  
 見つかっていても不思議ではありません。それにもかかわらず、ペテロは  
 「キリストには何の罪もなかった」と証言したのです。

では、この証言は誇張や虚偽だったのでしょうか？ それは考えに  
 くいことです。福音宣教はキリストの十字架の死と復活の約50日後  
 に始まりましたが、ペテロはその中心人物として熱心に活動しました。  
 宣教は直ちに困難と妨害に晒されましたが、ペテロたちは命を懸けて

でんどう つづ さいしゅうてき ねん ねん じゅうきょう つた  
伝道を続け、最終的にペテロは64年または67年に殉教したと伝えら  
れています。

みづか いのち か しん  
ペテロは、自らの命を懸けてキリストを信じ、  
の べつ 伝えました。ですから、冒頭の言葉はペテロ  
いのち しょうげん い げんたい さいばん  
の命がけの証言であると言えます。現代の裁判で  
いのち しょうげん しんじつせい たか ひょうか  
も、命がけの証言は真実性が高いと評価されます。  
したが しょうげん しんらい あたい  
従って、ペテロの証言は信頼に値するものです。  
また、この証言は聖書全体とも矛盾しておらず、  
いっかん つか かた しめ  
一貫してキリストが罪のないお方であることを示  
しています。



いっぼう しんこう たい はんかん も  
一方で、キリスト信仰に対して反感を持つ  
ひと 人もいます。それは、しゅうきょう な もと ざんぎやく  
せんそう しんりやく く かえ げんいん  
戦争や侵略が繰り返されたことが原因です。  
しかし、それらの行為は「キリストを利用した」  
ものであり、「キリストのために」行われたも  
のではありません。いかなる せんそう しんりやく  
戦争や侵略も、おこな ほうりやく し  
キリストの教えに反しています。キリストの名の下に行われた暴力や支  
はい じっさい にんげん よく つみ もと せいしょ かれ あし  
配は、実際には人間の欲と罪に基づくものであり、聖書には「**彼らの足  
は血を流すのに速く、彼らの道には破壊と悲惨がある。彼らは平和の道  
を知らない。**」(ローマ人への手紙3章15~17節)とある通りです。

しょうげん じしん ぶじやく こうげき う  
ペテロの証言にもあるように、キリストご自身は侮辱や攻撃を受けて  
いっさいいていこう むじつ じゅうじか  
も一切抵抗せず、無実でありながら十字架にかけられました。そしてペ  
すがた なら むていこう じゅうきょう  
テロも、その姿に倣って無抵抗のまま殉教しました。

しゅ ひと み こ かみ おお びょうにん  
主イエス・キリストは、人となられた御子なる神です。多くの病人を  
いや しにん い かえ あらし はず みず うえ ある かずかず きせき  
癒し、死人を生き返らせ、嵐を鎮め、水の上を歩くなど、数々の奇跡を  
おこな ひとびと あい かみ めぐ しめ  
行われました。それらはすべて、人々への愛と神の恵みを示すためでし

た。しかし、捕らえられた後は一切の奇跡を用いず、不当な裁判の末に十字架刑に処せられました。



では、なぜキリストは十字架にかかり、死なれたのでしょうか。それこそが、キリストがこの世に来られた目的だったのです。

キリストはこう語られました。「もし、あなたの手があなたをつまずかせるなら、それを切り捨てなさい。両手がそろっていて、ゲヘナに、その消えない火の中に落ちるより、片手でいのちに入るほうがよいのです。」(マルコの福音書9章43節)

これは、「罪を犯すならば、神の裁きを受けなければならず、それは永遠の地獄での苦しみである。しかし、どんな犠牲を払っても地獄に行ってはならない」という意味です。罪ある私たち人間は、死後地獄で裁きを受けなければなりません。しかし、私たちの罪の罰を身代わりに受けるために、キリストは十字架にかかって死んでくださいました。そして、死後3日目に復活し、死に打ち勝たれたのです。

神から離れた人生は、群れから迷い出た羊のようです。人生の意味や目的を見出すことができず、やがて死を迎え、永遠の滅びに至ります。キリストは、そうした私たちを救うために来られました。誰でも



イエス・キリストを救い主と信じて受け入れるなら、すべての罪が赦され、天国に入ることができます。また堕落や誘惑などの危険からも守られて、天に向かって生きることができます。もはや迷える者ではなく、信仰によって神に立ち返った者となるからです。どうか皆様も、イエス・キリストを信じ、神に立ち返る方となってください。